

令和7年度 大阪市立南港北中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪府教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)			平均IRTスコア
実施月日			国語	数学	国語	数学		理科
3 年	学校	110	54	48	6.2	11.3	学校	487
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2	大阪市	489
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6	全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年 9月2日	学校	112	64.7	52.6	52.9	47.7	51.4	5.8	5.8	12.3	10.4	8.0
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4

※ 3年生の理科はB問題を選択

令和7年度 大阪市立南港北中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

＜国語＞

- ・『知識及び技能』では、大阪府、全国と比較して、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域において、大阪府、全国の平均を上回っていた。
- ・『思考力、判断力、表現力等』では、大阪府、全国と比較して、「書くこと」の領域については下回っていたものの「話すこと・聞くこと」の領域および「読むこと」の領域において大阪府、全国の平均を上回っていた。
- ・問題形式で見ると、短答式の「読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかをみる問題」「読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかを見る問題」については大阪府、全国と比較して特に高かった。授業において、実際に手紙を送るという生活に即した学習活動の成果が表れていると考えられる。
- ・問題形式が記述式の問題については無解答率が高くなっていたが、全体的には無解答率は低くなっており、最後まで解答を導き出そうという姿勢が身についてきたと言える。

＜数学＞

- ・「図形」の領域および「データの活用」の領域において、大阪府、全国の平均を上回った。「式と数」の領域において、大阪府の平均を上回った。全国の平均は下回ったもののこれらを総合し、全体としてみると大阪府の平均を上回り、全国の平均をわずかに下回るという結果であった。
- ・問題形式で見ると、「多角形の外角の意味を理解しているかどうかをみる問題」「相対度数の意味を理解しているかを見る問題」では大阪府、全国と比較して特に高かった。1年次より必要な分野ごとでおこなってきた少人数授業など、きめ細やかな指導の効果が結果に表れてきたと言える。
- ・問題形式が記述式の問題については無解答率が高くなっていたが、全体的には無解答率は低くなっており、この分野については、3年生の1年間で伸ばしていく必要がある。

＜理科＞

- ・大阪府と比較して、IRTバンドが1の生徒が少なく理科に前向きに取り組んでいる生徒が多いと思われる。それについては[生徒質問]の理科に関する項目(66)～(70)が非常に高いことからわかる。全国と比較して、IRTバンド1、3、4はほぼ一致しているものの2にあたる生徒がわずかに多く、この層の生徒を3に上げることが課題といえる。
- ・問題形式が記述式の問題については無解答率が高くなっていたが、全体的には無解答率は低くなっており、最後まで解答を導き出そうという姿勢が身についてきたと言える。

【今後に向けて】

- ・解答率の低い分野への学習の重点をあわせていくだけでなく、それぞれの教科のおもしろさもあわせて伝えていけるよう少人数展開も含めて授業改善をすすめていく予定である。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜成果＞

- ・平均点は大阪府全体の平均と同じであった。
- ・各教科ごとの対府比は、数学0.98、英語0.97で大阪府の平均をやや上回れなかった。国語1.01、社会1.03、理科1.04と大阪府の平均を上回ることができた。
- ・3年間の対府(1年社、理は市)比の推移を見ると、国語は、1年次から1.00→1.03→1.01、社会は、1.01(市)→0.94→1.03、数学は、0.94→1.03→0.98、理科は、1.05(市)→1.17→1.04、英語は、0.98→0.95→0.97という結果になった。

＜課題＞

国語科

得意分野:「言葉の特徴や使い方に関する事項」は大阪府と比較して0.4上回ることができた。「話すこと・聞くこと」についても大阪府を上回ることができた。

課題分野:「我が国の言語文化に関する事項」は大阪府より0.5下回った。「情報の扱いに関する事項」、「書くこと」についても0.1下回った。

社会科

得意分野:「地理的分野」では大阪府の平均を1.3上回り、「知識・技能」、「思考・判断・表現」については0.7上回ることができた。「歴史的分野」は同じであった。

課題分野:「短答式」の問題については大阪府平均を0.1下回った。

数学科

得意分野:「データの活用」では大阪府の平均を0.2上回った。

課題分野:他の分野では大阪府の平均を0.2～0.5下回った。

理科B

得意分野:「生命」では大阪府平均を1.0、「粒子」では0.8、「地球」では0.6上回った。

課題分野:「エネルギー」では0.7下回った。

英語科

得意分野:記述式については大阪府平均と同じであった。

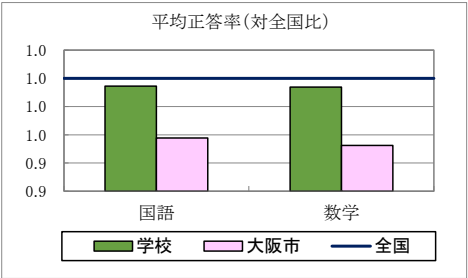
課題分野:「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」について大阪府平均を0.4～0.9下回った。

令和7年度 大阪市立南港北中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

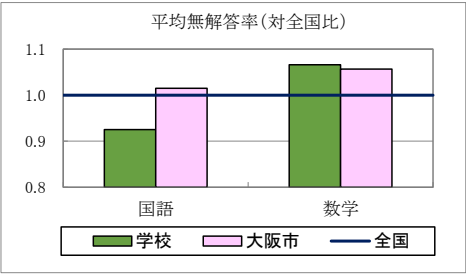
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	54	48
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

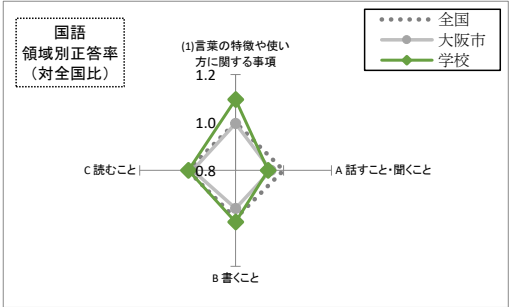
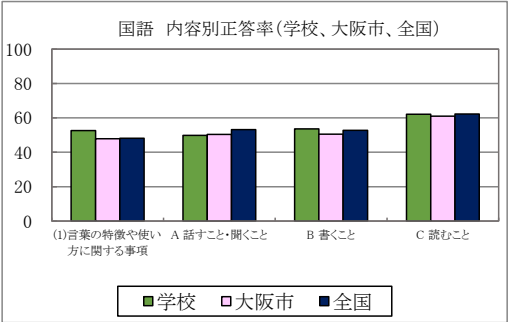


	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	6.2	11.3
大阪市	6.8	11.2
全国	6.7	10.6



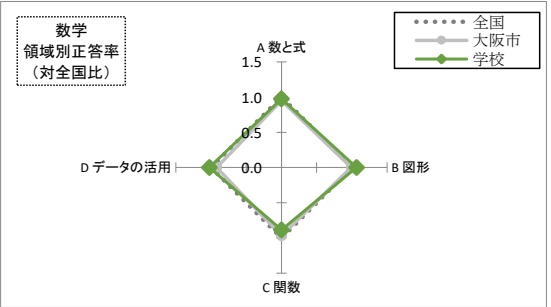
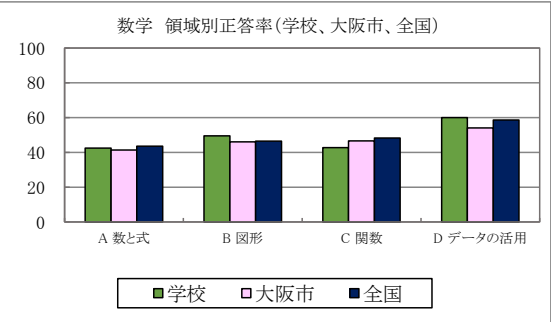
【 国 語 】

学習指導要領の 内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	52.7	47.9	48.1
(2)情報の扱い方に 関する事項	0			
(3)我が国の言語文化 に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	49.8	50.4	53.2
B 書くこと	5	53.6	50.6	52.8
C 読むこと	3	62.1	61.0	62.3



【 数 学 】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	42.4	41.4	43.5
B 図形	4	49.5	46.1	46.5
C 関数	3	42.7	46.6	48.2
D データの活用	3	60.0	54.0	58.6

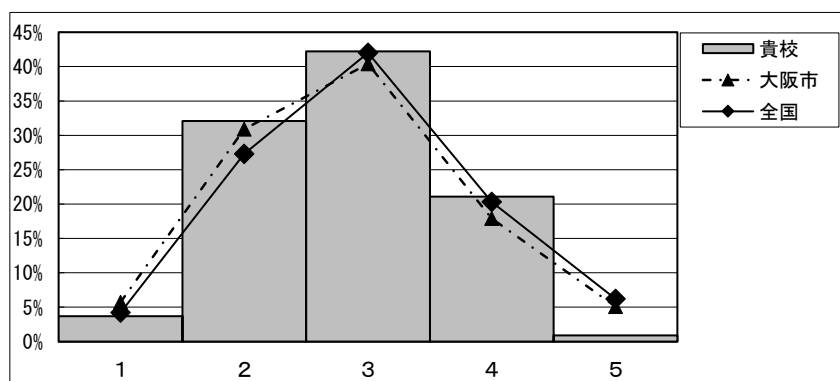
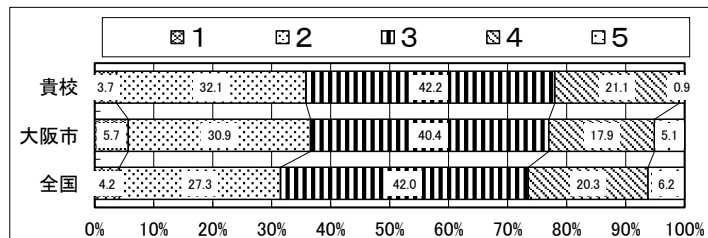


令和7年度 大阪市立南港北中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	487
大阪市	489
全国	503



令和7年度 大阪市立南港北中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

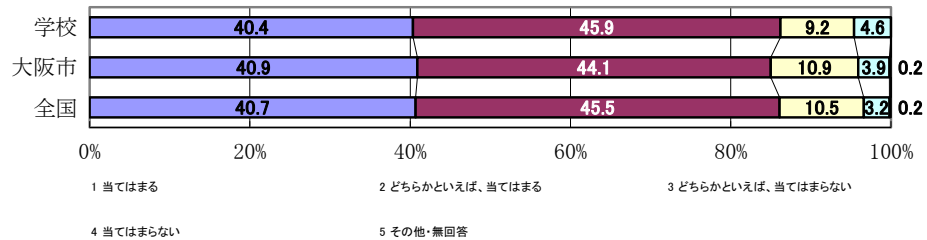
生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号
質問事項

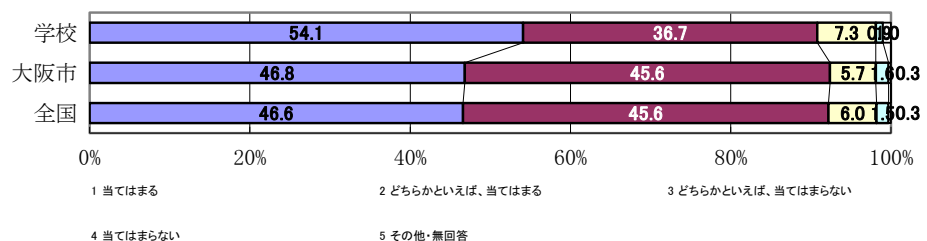
5

自分には、よいところがあると思いますか



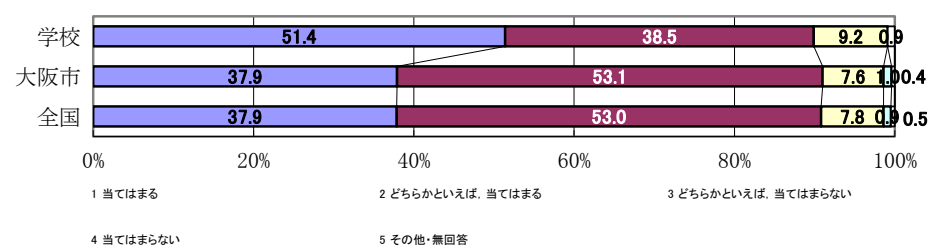
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



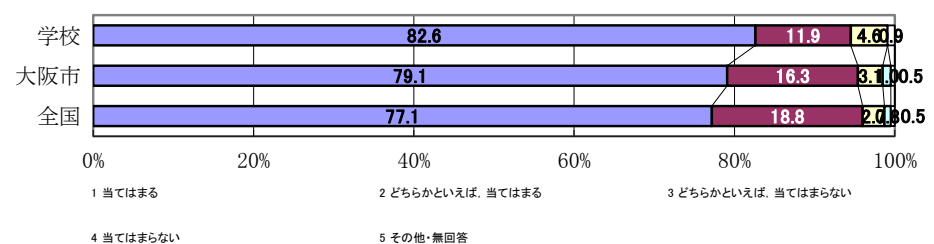
8

人が困っているときは、進んで助け
ていますか



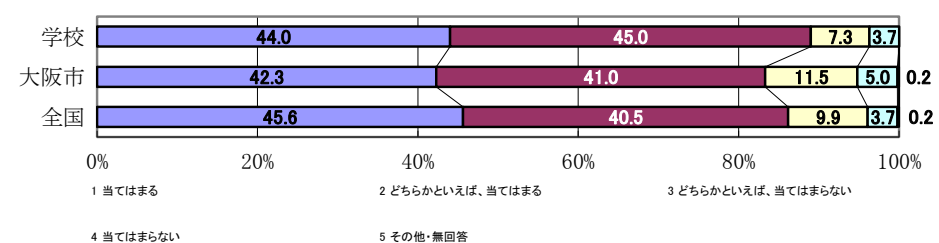
9

いじめは、どんな理由があってもい
けないことだと思いますか



12

学校に行くのは楽しいと思いま
すか



令和7年度 大阪市立南港北中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

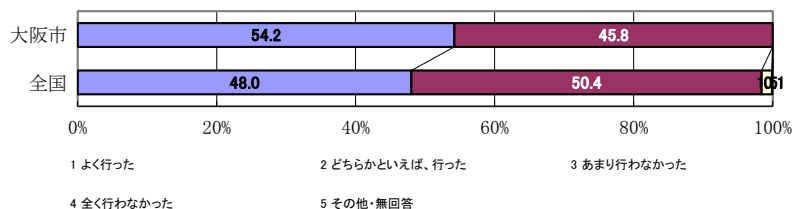
質問番号

質問事項

9

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

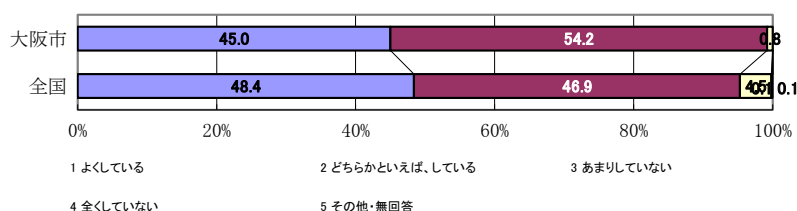
学校 「よく行った」を選択



18

授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

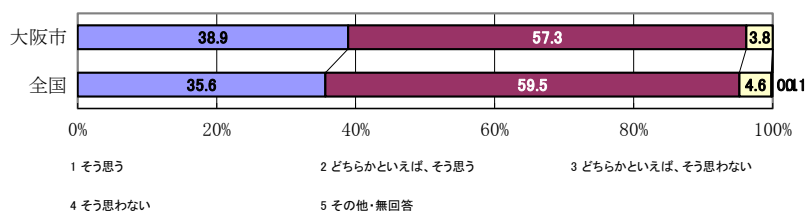
学校 「よくしている」を選択



28

調査対象学年の生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか

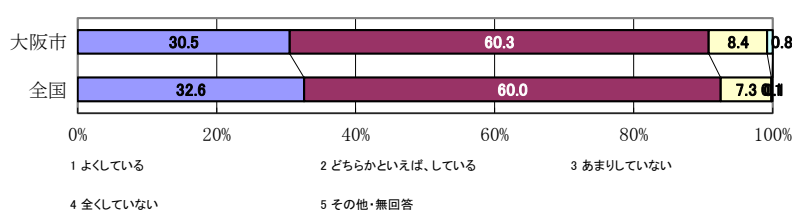
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



38

調査対象学年の生徒に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の生徒が意思決定できるような指導を行っていますか

学校 「よくしている」を選択



39

調査対象学年の生徒に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択

